

# 第49回全国・東京都学校安全教育研究大会の研究の概要

[令和8年2月6日（金）会場：東京都調布市立富士見台小学校]

東京都調布市立富士見台小学校長 小俣 弘子

地震、豪雨・台風などの自然災害、通学路、学校生活、家庭生活の中での事故や事件、SNSに関するトラブルなど、児童の安全を脅かす状況は、複雑化・多様化しています。このような状況において、子どもたちが、安全に関する学習をとおして、主体的に危険を予測、回避する力を身に付けて、安全な生活を送ってほしいと願っています。そこで、本校では、全国・東京都学校安全教育研究会大会の研究主題を以下のとおり設定し、2年間にわたって研究を推進してきました。

## 研究主題

自他の生命を尊重し、安全のために行動ができる児童の育成  
～危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために～

## 研究の仮説

- ・児童の身の周りにおける危険について気付かせる課題を設定することで、自分事として危険を予測することができる。
- ・危険を回避するためにはどうすればよいか主体的・協働的に考えることで、安全のための行動を知ることができる。
- ・安全な行動を実際に練習したり経験したりすることで、自ら判断して安全に行動することができる。

上記の研究の仮説を検証するため、「第3次学校安全の推進に関する計画」に示されている5つの推進方策の中で、特に推進方策③の「安全に関する教育の充実」を研究の重点として取り組んできました。

## 推進方策③ 安全に関する教育の充実

**【授業研究】** 以下の4つの分科会で系統的な指導計画を作成し、研究授業を通じての検証を行っていく。

<生活安全分科会> <生命（いのち）の安全教育分科会> <交通安全分科会> <災害安全分科会>

研究主題に迫るための手立て

①予測し、自分の考えをもつ ②分かる（調べる・話し合う・知る） ③自分事として捉え、行動する

### 【安全指導】

- ・毎月全校で同じ時間に設定
- ・児童の実態や時期等を考慮した指導内容
- ・スライドや動画等の教材を作成
- ・年間通じた振り返りカードを導入

### 【避難訓練】

- ・地域や施設の災害リスクを把握し実効的な内容を設定
- ・地震時（余震、けが人発生、登下校時）
- ・水害時（垂直・水平避難）等

### 【体験的な学習の充実】

- 地域・保護者・外部講師と連携
- ・歩行者、自転車シミュレーター
- ・普通救命救急講習
- ・SNS等の情報モラルの講話等

研究大会では、通常の学級20学級、特別支援学級2学級の全学級で、児童の発達段階や地域・社会の状況を捉えて実態に即した授業研究の課題を設定しました。公開授業では、安全のために行動ができる児童の育成を目指した内容の授業を公開しました。

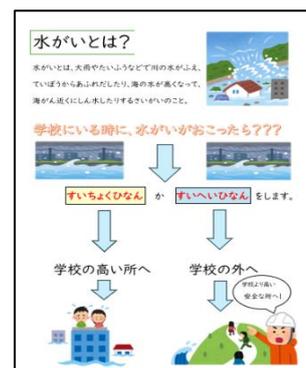
また、これまで児童が授業等を通じて学んだことを、実生活に生かしたり、学年を超えて伝え合ったり、学校全体の生活ルールや施設改善を行ったりするなど、児童が主体的に活動した様子を発表しました。さらに、毎月行っている「安全指導」の教材や指導法、地域や児童の実態を踏まえた実効的な「避難訓練」、災害や事件・事故が発生したことを想定したシミュレーション「教職員研修」などについて研究大会で発表しました。



地震時、けが人が出た場合



食物アレルギー対応訓練



洪水が起こった時の安全指導